

院長職を引き継いで

院長 脇坂 信一郎

この4月から柴田紘一郎前院長の後任として、宮崎県立日南病院長を拝命いたしました。この間のいきさつは既に当病院のホームページに新任の挨拶として載せておりますが、私に取りましては、宮崎医科大学時代以来の親友である柴田先生が突然県立日南病院長を辞任されるのは寝耳に水の出来事であり、ましてや後任候補に私を推薦されるとは夢にも思っていませんでした。

諸般の事情により後任の院長職を引き継ぐことになりましたが、2ヶ月半経って「院長先生」と呼ばれるのにもやっと慣れた頃、改めて県立日南病院が置かれた立場や院長職の重責がひしひしと身に迫ってきます。柴田先生は多くを語られませんでしたでしたが、院長職の重圧感やストレス、多くの業績を挙げられながらも辞任に至った苦衷のほどが忍ばれます。

当病院は既に多くの累積赤字を抱えていますが、南那珂医療圏の総人口は年々約800人ずつ減少しており、入院患者数の減少傾向に歯止めを掛けるのは困難です。現実の入院患者数、病床稼働率に見合った総病床数、病棟再編を検討する時期に来ているように思われます。そして病床を有効利用するためには、「どこの病棟は何科」という枠を撤廃し、特殊な病床を除いて全ての病院病床を各診療科共通の病床にする必要があるのではないのでしょうか。

地域医療連携を図り「かかりつけ医」システムを推進するためには、ある程度の外来患者数減少はやむ得ませんが、経営健全化のため入院収益を上げるには、入院単価を上げるため様々な加算条項を満たす必要があります。しかしそれぞれの加算要件を検討しますと、結局の所行き着くのは「人」の問題です。これを補うためには院内職員各位の更なるご協力が必要でしょう。また院内の「人」不足のために患者さんが他医療圏に流れている現実もあります。今後は高収益部門や高加算が見込める部門に重点的に「人」を繰り返し要求し続けて行くつもりです。

しかしながら、決して忘れてはならないのは、患者さんの悩みを自分の悩みとして共感する「医の心」です。高収益を目指すあまり医療の本来のあり方を踏み外すのでは本末転倒でしょう。現在県立日南病院にある「人の和」、医療に対するモチベーションを私は崩したくありませんし、今後も「患者さんの立場に立った」医療を追及して行こうと思っています。

[contents](#) [next](#)

院内トピックス

☆「皮膚科」から「皮膚科・形成外科」へ

当院では本年7月3日から「皮膚科」を「皮膚科・形成外科」といたしました。
ただし、「形成外科」は、毎週火曜日と毎月第2・第4水曜日は休診させていただきます。
また、「木曜日」は手術のため、予約のみの診療です。

☆気管挿管実習修了証の交付

昨年5月から、当院麻酔科の指導の下、気管挿管実習を行っていた日南市消防署救急救命士岩下和己さんがこの度、30症例の実習を終えたため、脇坂病院長から修了証を交付しました。

[Back](#) [contents](#) [next](#)

苦情担当のひとりごと

事務次長 井上昌憲

174件。これは、平成17年度（平成17年4月1日～平成18年3月31日）の、当院7ヶ所に設置している「ご意見箱」への、当院への苦情や要望の件数である。

昨年度（16年度）の件数が、107件であるから、1.6倍の増加である。年々増える傾向にあるが、苦情の内容を見ると、たぶんに港に氾濫する医療情報に関する影響もあるのであろうかと思われるものも多く見受けられる。直接、患者さんに介助等で接する時間も多く、やむを得ないことかなとも思う。

174件の内訳であるが、苦情が89件、要望が64件、お礼が19件、その他が2件ある。

苦情で一番多いのは看護師であるが、毎日、患者さんに介助等で接する時間も多く、やむを得ないことかなとも思う。

医師に対しては、インフォームド・コンセント（十分な説明）不足を指摘する投書も多い。また、病院には、待ち時間の長さに対する不満も多く、職員の明るい笑顔での応対を望む声も相当数ある。

この他医療連携科（医療相談室）が受ける苦情や電話や手紙等によるもの、それに病棟や外来での現場での苦情や要望もある。

確かに当院側の落ち度による苦情も少なくないが、しかし、直接会って話しをしてみると、お互いのちょっとした言葉の行き違いや気配りのなさが、苦情の原因になっていることも多い。

当院で、この仕事を担当して2年半になるが、初めて知ったことがある。

それは、先般、院長とNICU（新生児集中治療室）を巡視したときのこと。ナースステーションの横の部屋に、退院したお母さんから送られてきた元気な子どもの写真と感謝の手紙やはがきが貼ってあった。ほんの一部であるという。総看護師長から他の病棟にもそういう事例はたくさんあると聞いた。

「苦情」よりももっと多くの患者さんからの「感謝」のところがこの病院に寄せられている。

また、いま、電子カルテ導入に伴う再来受付機の取扱の説明のため、朝、患者さんと会う機会が多い。なじみの患者さんも増えた。少しの時間であるが、再来受付機が動き出すまで患者さんといろいろな世話をする。父や母と同じような年齢の患者さんから苦情やおしかりを受けたり、また、逆に激励されたりする。県立日南病院を信頼し、何十年も通院してくださる患者さんも多い。

この患者さん達がいて、この病院がある。ありがたいことだと思う。

◇ご意見箱に寄せられたご意見等は、ご意見内容と当院の対応を、当院のホームページに掲載するとともにエントランスホールと東玄関入口に掲示しておりますのでご覧ください。

[Back](#) [contents](#) [next](#)

患者様にお願い

★ 再来受付機の受付時間について

1. 予約をされていれ患者様
 - ・ 8時15分～16時までに再来受付機で受付をお願いします。また、16時以降の患者様は、2番新患カウンターで受付をお願い致します。
2. 予約をされていない患者様
 - ・ 8時15分～11時までに再来受付機にて受付をお願いします。※ただし、緊急の場合は、この限りではありません。
2番新患カウンター窓口でご相談ください。



[Back](#) [contents](#) [next](#)

ためになる話<No.2>

- 1. 同僚や後輩をうまくリードする7つの原則について
- 2. 運動とカロリー消費量について

ストレス社会といわれる時代、職場でも家庭でも苦境に立たされたり悩んだりしていませんか？また身近に同僚や後輩はいませんか？今回は（1）同僚や後輩をうまくリードする原則について、とダイエットしようと考えている方・努力している方へ（2）運動とカロリー消費量について、ためになる話をお知らせします。

1. 同僚や後輩をうまくリードする7つの原則について

- 1. いいところはおおいにほめる
- 2. 気分で物を言わない
- 3. 時にはうつぶんを黙って聞く
- 4. 完全に任せる部分を作る
- 5. 苦戦していたら新しいやり方のヒントを与える
- 6. 時には一緒に悩み、また明日考えようと言う
- 7. 嫌がることは繰り返して慣れさせる

対策

- 1. まず休養を取る・とらせる
- 2. 聞き役になりグチをはき出す・出させる
- 3. 友達と会う
- 4. 家族と出かける
- 5. 汗をかいたり、大声を出すことをする
- 6. 身体を動かすと心の疲れが取れる
- 7. 専門に相談する

2. 運動とカロリー消費量について

		男 性		女 性	
	体 重	65kg	75kg	45kg	55kg
軽い運動	睡眠	90	78	139	114
	机上事務	51	44	77	63
弱い運動	ゆっくり歩行	33	29	52	42
	掃除機で掃除	31	27	48	40
	入浴	25	22	40	32
普通の運動	自転車	23	20	36	30
	急ぎ足	19	17	30	25
	階段昇降	15	13	24	19
	ラジオ体操	19	16	29	24
	ゴルフ	14	12	33	27
強い運動	テニス	12	11	19	16
	ジョギング	12	11	19	16
	水泳（平泳ぎ）	8	7	12	10
	水泳（クロール）	4	4	6	5
	腹筋	10	9	16	13

例えば20代男性・体重65kgの人が100kcalを消費するには、23分間自転車を漕ぐ必要がある。
ところで、イチゴのショートクリームケーキ：300kcal前後あるそうです！

[Back](#) [contents](#) [next](#)

医療連携コーナー

「医療連携科ってどんな科なのか？何をするのですか？」

今年4月に県立病院の組織が一部変わり、医療連携科という部門が新設されました。新聞等の報道でも大きく取り上げられましたので記憶にある方もおられると思います。でも「医療連携科ってどんな科ですか？内科、外科ならだいたいわかるんだけど」と思われた方も多いと思います。今回は医療連携科について説明しましょう。

医療連携科は、内科、眼科のように患者さんを直接診療する診療科ではなく、医療企画部に属する部門です。仕事の内容を簡単に述べると「医療連携を推進するために設置された部門」といえます。最近、医療連携という言葉が新聞紙上などでもよくみることができます。では医療連携とは何をさすのでしょうか。「医療連携」とは、県立日南病院と地域機関などが手を携えて患者さんの診断治療を行っていくこと、と簡単にまとめることができます。患者さんが手厚い治療や看護が必要なときには、それができる病院（県立日南病院）へ入院・通院し、軽快したのちはかかりつけ医（開業医）に通院しながら自宅などで過ごす、という役割分担の考え方です。どうしてこのような役割分担が必要になるのかというと、背景に医療の高度化多様化、患者さんのニーズの増加があります。よりレベルの高い医療を提供し、患者さんの高い要望に応えるためには、どうしてもヒト・モノ・カネが必要になってきます。

医療資源には限りがあり、かつ医療費が削減されつつある今日、それらをすべてひとつの病院で揃えることはできません。従っていろんな病院、診療所などがそれぞれの特徴を発揮して、手を組んで医療に取り組む必要が出てきたのです。

この医療連携をスムーズにすすめるためには、病院と診療所、様々な医療介護機関のあいだの情報交換がとても大切になります。そこで近年大きな病院には両者をつなぐ専門部署である「地域医療連携担当部門」が設置されるようになりました。名称は「医療連携科」「医療連携室」「地域医療連携室」「地域連携室」など様々ですが、行うことは同じです。県立日南病院でも2003年4月から「地域医療連携室」が設置されていたのですが、今年4月からは「医療連携科」に名称が変更になったというわけです。

県立日南病院医療連携科では、医師、看護師長、医療相談員（Medical Social Worker）、事務職員の4名で、院内外との連絡調整、患者さんの立場に立った退院調整の実施、院外機関との合同研修会実施などを通じて、連携の推進をはかり、南那珂の住民の皆さんがより適切な医療を受けられるように活動を進めています。当院の医療連携科は、1階外来食堂前にあります。医療連携だけではなく、様々な医療相談などのご相談も承っておりますので、お問い合わせやわからないことなどがありましたらお気軽におたずねください。

（医療連携科 木佐貫 篤）

[Back](#) [contents](#) [next](#)

看護部トピックス

こんにちは！4階西病棟です

看護師長 野元 敦子

当院の4回には、素敵な吹き抜け空間があります。そこは、晴れた日には陽光が差しこみ、風が通る気持ちの良い一画となります。

私達の病棟おは、化学療法を受ける患者さん、重度心身障害児や、一般感染症の子供達が入院してくる病棟です。

以前から、「入院中の患者さんに少しでも心が和むようなことができないか」と考えていました。そんなスタッフの思いと、アイデアから素敵な農園が生まれました。名前は「お笑い農園」です。

患者さんやご家族だけでなく、医療従事者にとっても癒しの場となり好評を得ています。写真をご覧ください。トマトの苗にかわいい小玉スイカになっています。スタッフのユーモアあるいたずらです。患者さんの中には、農業従事者も多く、作物や花の育て方など話題が広がり、一瞬でも病気を忘れる時間を作り出します。また、なすやトマトが実を付け、苗が成長して花を咲かせる様子を子供達は喜んで見えています。「お笑い農園」は病棟のスタッフのボランティアとそれに賛同された患者さんやご家族の協力によるものです。

こうして相互理解が深まり、良い関係を生み出すことになります。これからも患者さんやご家族に、少しでもほっとする緑の空間が届けられるように、続けていきたいと思ひます。さてつぎはどんな実をつけるでしょうか。お楽しみに！！

[Back](#) [contents](#) [next](#)

妊娠中の魚介類の摂取

産婦人科 副医長 田中 博明

梅雨が明け、涼風が心地よい季節となり、日南に赴任し早1年が経ちました。日南は、宮崎県でも焼酎生産が盛んな所で、

また古くから天然の良港として知られている油津港があり魚のおいしいところです。私は、残念なことに焼酎が飲めないのので、魚を目一杯堪能させてもらっています。

最近、その魚のことにに関して、外来で質問されることがあります。「妊娠中に魚を食べ過ぎたら良くないと聞いたのですが」、「妊娠中にマグロを食べたのですが、赤ちゃんは大丈夫でしょうか」といったことです。ということで、妊娠と魚介類の摂取について少し述べさせていただこうと思います。

魚介類を食べることは、栄養面で必要なことなのですが、一部の魚介類等では食物連鎖等により水銀が多く蓄積していることが、最近知られるようになりました。成人や子供には影響はほとんどなく、水銀に感受性の高い胎児に対して、水銀を多く含有している魚介類を多量摂取すると影響を及ぼすおそれがありということです。

特に水銀を多く含む魚介類は、食物連鎖の頂点に立つ魚で、バンドウイルカ、ツチクジラ、コビレゴンドウ、マッコウクジラ及びサメ、メカジキ、キンメダイ、クロマグロなどです。具体的な摂取量を厚生労働省が勧告していますが、魚介類等の平均水銀濃度と標準的な1日摂取量を掛け合わせて、1週間に3回程度食べた場合に暫定的耐容週間摂取量を超えてしまう魚種について、注意の対象としています。ですから、クロマグロは週4回以上食べないと暫定的耐容週間摂取量を越えないため今回の勧告には含まれていません。具体的な魚の種類と摂取量は以下のとおりです。

- ・バンドウクジラについて

1回60～80gとして2ヶ月に1回まで

- ・ツチクジラ、コビレゴンドウ、マッコウクジラ及びサメ（筋肉）について

1回60～80gとして週に1回まで

- ・メカジキ、キンメダイについて

1回60～80gとして週に2回まで

一方、魚介類等は良質な蛋白質、不飽和脂肪酸が多く含まれ、微量栄養素の摂取源で、妊娠している方にとっても重要な食材です。注意事項にあるような魚種等の摂食に注意をしてもらい、魚介類の摂食の減少につながらないように正確な理解をしてもらいたいと思います。仮にこの目安とされたレベルを超えたからといってすぐに明確な症状として現れるようなものではなく、今後は少し摂取を控えるといったことをすればよく、過剰な心配はする必要がありません。

個人的に、こういったことを気にしながら食事するのは寂しいですが、これから夏に向けて、水銀含有量の少ないスズキ、イサキ、アジ、ハモ、カマスといった魚が旬を迎えますので、水銀を気にすることなく食していただければと思います。

[Back](#) [contents](#) [next](#)

脇坂 信一郎 病院長にインタビュー

脇坂院長は平成18年4月県立日南病院長に就任されました。今回は、院内機関紙を通し、熱い思いを発信して欲しいと思い、インタビューしてみました。

Q：日南病院の印象を聞かせて下さい。

自治体病院の経営改善でまず求められるのは職員の意識改革なのですが、就任前に当院の年報を読ませて貰い、職員が既に明確な革命の意識を持って一丸となって取り組んでおられることを知り敬服いたしました。就任後にまず感じたことは、職域を超えた「人の和」があるということです。和があつてこそお互いの考えが分かり、それはまた患者さんの気持ちが分かることに通ずると思います。私はこの「人の和」を大事にしたいと思います。

Q：今、病院で行いたいことは何でしょうか？

南那珂医療圏の中核病院として、医療圏唯一の二次救急施設として、当院は施設にして、当院は地域に対して高度で質の高い安心・安全の医療を提供する責務があります。そして南那珂の医療は南那珂で完結できるように地域の医療連携を今後とも推進して行きたいと思います。

医療圏の総人口は年々減少しており、入院患者数数の減少傾向に歯止めを掛けるのは困難です。経営改善には入院単価を上げる必要があり、そのためには先ず様々な加算要件をクリアーしたいと考えています。高収益部門、高加算部門への人の配置、増員を考えたいと思います。

Q：病院長になり困ったことは何でしょうか？

今までと環境が異なり、「院長先生」と言われる事に慣れるのに2ヶ月はかかりました。当然ながら日常の思考内容も医学から医療経営、医療経済、医療政策へと変化し、この領域での知識の乏しさに焦りを感じます。人との交流範囲も行政、地域社会の要人へと拡がり、時には戸惑いすら感じています。

Q：今までに一番泣けたことはどんなことでしょうか？

これは大変難しい質問です。これまでの人生で苦しかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと、嬉しかったことなどで涙したことは多々あります。年と共に涙もろくなり、テレビや結婚式のスピーチについてホロリとなることもあります。幼い頃を除き号泣した記憶がありません。

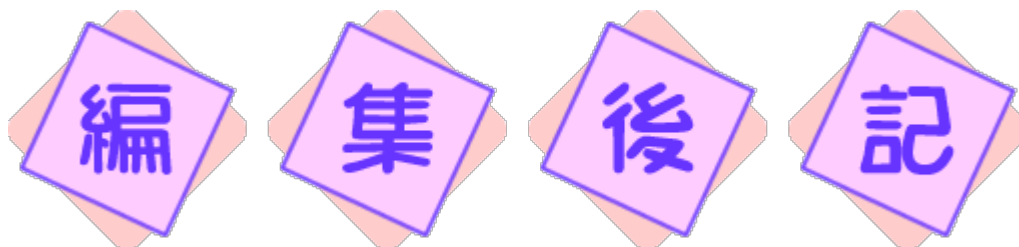
Q：今までに一番嬉しかった時はどんなことでしょうか？

これまでの人生で嬉しかったことも沢山あったでしょう。しかし段々と記憶が薄れ、比較的新しい出来事が強く思い出されるものです。

私は旧宮崎医科大学の教授就任以来、15年間にわたって宮崎大学医学部漕艇部の顧問をしてきました。実は私の学生時代に九州大学全学のボート部に所属した期間があり、博多湾の遠漕や筋トレに汗と涙を流した青春時代がありました。漕艇部の部員を杯を交わしながらボートの話をしていると、焼けぼっくに火が付いたように昔の熱い心が蘇り、世代を超えて熱い連帯感に浸る楽しくも嬉しい一時でした。多くのボートの仲間が出会えたことが一番嬉しいことです。私の大学定年退職に際し寄せ書きを書ってくれたオールは今も医院長室に飾っています。

日南在住の宮崎大学医学部漕艇部出身者は、現在院内に米山先生、平塚先生、川野先生、池田先生がおられ、院外では開業の福岡先生、中部病院の田中先生がおられます。

ありがとうございました。院長先生の人柄や、青春時代の思い出を知り、身近に感じる事ができました。



■七夕に寄せられた短冊は236枚。「じいちゃんが元気になりますように じいちゃんと暮らせるようにじいちゃんばんばれ」とお孫さんであろう。「父が絶対良くなりますように（子ども）」「リハビリを頑張って早く良くなってください（妻）」など沢山の願い事があった。みなさんの早い回復を祈っています。

■表紙は、当院でのいろいろな部署で働くみなさんです。病院は、医師や看護師など医療従事者だけでなく、医療事務、受付、警備、施設管理など沢山のみなさんの力に支えられています。

■暑い夏です。栄養と休養をしっかり取って、元気に乗り切ってください。

（広報編集委員会）

